

令和5年度

年間授業計画

第三学年



東京都立大島高等学校

〒100-0101
東京都大島町元町字八重の水127

TEL: 04992 (2) 1431

FAX: 04992 (2) 2461

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
国語	現代文B		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科	3	3	栗山
使用教科書			
高等学校 改訂版 現代文B 第一学習社			
使用副教材			
改訂版 現代文B 学習課題集 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）、最新国語便覧（浜島書店）			
学 習 目 標			
近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって言語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
読む能力	知識・理解		
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評 価 方 法			
定期考査や授業中に行う小テスト、提出物などを総合的に評価する。			
1学期の内容 (39時間)	2学期の内容 (39時間)	3学期の内容 (27時間)	
第Ⅰ章 評論(一) 「未来世代への責任」 小説(一) 「檸檬」 評論(二) 「言語が見せる世界」 ビブリオバトル	第Ⅱ章 評論(三) 「身体の個別性」 評論(四) 「リスク社会とは何か」 小説(二) 「舞姫」	第Ⅱ章 評論(四) 「コスモポリタニズムの可能性」 評論(五) 「現代日本の開化」 「である」と「すること」	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
国語	国語表現		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
併合科	3	3	市川
使用教科書			
国語表現(大修館書店)			
使用副教材			
国語表現 準拠学習ノート(大修館書店)			
学 習 目 標			
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実、コミュニケーション能力の向上を図る。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
読む能力	知識・理解		
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評 価 方 法			
毎時間の授業に対する姿勢、発言、小テストや定期考査、また、適宜課す作文、レポートなどの提出状況やその内容を確認、評価する。			
1学期の内容 (39時間)	2学期の内容 (39時間)	3学期の内容 (27時間)	
第一部 表現力を培う 1 書いて伝える レッスン1～4 実践トレーニング(1) 2 小論文・レポート入門 レッスン1～7 表現への扉 5 声とコミュニケーション レッスン1～3 表現への扉5	第一部 3 自己PRと面接 レッスン1～5 実践トレーニング(2) 4 メディアを駆使する レッスン1～4 表現への扉4 6 会話・議論・発表 レッスン1～3 表現への扉6	第二部 表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ 4 「わが町自慢」の パンフレット作り 8 エッセイを書こう 9 パロディー物語を書こう	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
国語	古典演習		自由選択
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科	2	3	下川
使用教科書			
古典A 物語選(大修館書店)			
使用副教材			
古典文法ベーシックノート(文英堂)、古文単語330(いっずな書店)			
学 習 目 標			
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。また、大学入試問題に対応できる古文・漢文の読解能力を身に付ける。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
読む能力	知識・理解		
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評 価 方 法			
定期考査や授業中に行う小テスト、提出物などを総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
・問題演習 ・文学史の確認 ・古典文法復習 ・古文単語演習	・共通テスト予想問題演習 ・大学別過去問題演習 ・古文単語演習	・共通テスト予想問題演習 ・大学別過去問題演習 ・古文単語演習	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
国語	文学鑑賞		自由選択
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科	2	3	栗山
使用教科書			
国語表現(大修館書店)			
使用副教材			
国語表現 準拠学習ノート(大修館書店)			
学 習 目 標			
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実、コミュニケーション能力の向上を図る。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
読む能力	知識・理解		
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評 価 方 法			
毎時間の授業に対する姿勢、発言、小テストや定期考査、また、適宜課す作文、レポートなどの提出状況やその内容を確認、評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
第一部 表現力を培う 1 書いて伝える レッスン1～4 実践トレーニング(1) 2 小論文・レポート入門 レッスン1～7 表現への扉 3 自己PRと面接 レッスン1～5 実践トレーニング(2)	第一部 4 メディアを駆使する レッスン1～4 表現への扉4 5 声とコミュニケーション レッスン1～3 表現への扉5 6 会話・議論・発表 レッスン1～3 表現への扉6	第二部 表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ 4 「わが町自慢」の パンフレット作り 8 エッセイを書こう 9 パロディー物語を書こう	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態	
国語		現代文演習		自由選択	
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任	
普通科		2	3	栗山	
使用教科書					
高等学校 改訂版 現代文B 第一学習社					
使用副教材					
2023 共通テスト対策問題集現代文(河合出版)、大学に出た核心漢字2500＋語彙1000(尚文出版)、新国語問題総演習(桐原書店)					
学 習 目 標					
近代以降の様々な文章を読むことによって、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。具体的には、大学受験に対応できるだけの現代文の読解力を身につける。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨					
関心・意欲・態度		話す・聞く能力		書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。		目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めることができる。		相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめることができる。	
読む能力		知識・理解			
文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価することで、文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。			
評 価 方 法					
定期考査や授業中に行う小テスト、提出物などを総合的に評価する。					
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)	
・現代文読解練習 (講義と問題演習を行う) ・共通テスト対策重要問題集 (論理的な文章/実用的な文章) 第1回から第10回まで (文学的な文章) 第11回から第20回まで ・核心漢字2500＋語彙1000 漢字テスト		・共通テスト予想問題演習 ・大学別過去問題演習 (中堅私立大から国公立大まで) ・核心漢字2500＋語彙1000 漢字テスト		・共通テスト直前対策演習 ・大学別過去問題演習 (中堅私立大から国公立大まで)	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
地理歴史	地理B		選択必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科	4	3	山根 拓
使用教科書			
新詳地理B(帝国書院)			
使用副教材			
標準高等地図-地図でよむ現代社会-(帝国書院), 最新地理図表 GEO 新版二訂(第一学習社)			
学 習 目 標			
現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理的諸事象、ないしは現代世界の諸地域や諸課題に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけ、結びつけることができる。	・現代世界の諸地域の特色について歴史的背景との関わりから地誌的に考察することができる。 ・地理的概念や規則性をもとに、現代世界の諸地域で生じている諸課題の現状について把握することができる。	・地理学習に必要とされるさまざまな資料を収集し、それらを的確に取捨選択し、調査・分析することができる。 ・文献や統計の分析、野外における諸事象の観察から、地理情報を見いだし、それを的確に地図化することができる。	・地理的諸事象や現代世界の諸地域の特色、諸地域で起こっている諸課題についてさまざまな角度から理解を深めることができる。 ・地域において社会生活を営むにあたって必要とされる基礎的知識や基本的概念(空間・環境・地域)、地理的見方・考え方を身につけている。
評価方法			
①考査 ②レポート作成 ③プレゼンテーション ④小テスト 以上の4点を総合的に評価する。			
1学期の内容 (52時間)	2学期の内容 (52時間)	3学期の内容 (36時間)	
第3編 現代世界の地誌的考察 第2章 現代世界の諸地域 8 中央・南アメリカ 9 オセアニア 第4章 民族・宗教 1 生活文化 2 民族・言語・宗教 3 民族問題・言語問題 4 領土問題	第2章 資源、産業 5 流通・サービス業 6 消費行動と消費関連産業 7 資源・エネルギー問題 8 食糧問題 9 日本の諸課題	第3章 人口、都市・村落 1 人口 3 人口問題 2 都市・村落 4 居住・都市問題	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
公 民		政経演習		自由選択
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		2	3	山根 拓
使用教科書				
改訂版 政治・経済(数研出版)				
使用副教材				
最新図説 政経(浜島書店)				
学 習 目 標				
広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
現代の経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとしている。	現代の経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しようとしている。	現代の経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現しようとしている。	現代の経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。	
評 価 方 法				
①授業での取組(発表、議論、ワークシート等)、②提出物、③レポート課題 等により、総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第1節 経済活動の意義と経済体制 第2節 現代経済のしくみ		第3節 日本経済と福祉の向上 第2章 国民経済と国際経済 第1節 国際経済の動向 第2節 国際経済の課題と国際協力		第3編 現代社会の諸課題 持続可能な社会の形成を目指して 第1節 現代日本の諸課題 第2節 国際社会の諸課題

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
地理歴史		日本史A		必修
対 象		単 位 数	学 年	教科担任
普通科		2	3	沢田 李衣
使用教科書				
高等学校日本史A新訂版(清水書院)				
使用副教材				
新詳日本史(浜島書店)				
学 習 目 標				
我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
日本の近現代の歴史と現代の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	日本の近現代の歴史と現代の諸課題また、世界史との関係性や事象に関することを多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。	日本の近現代の歴史と現代の諸課題、世界史との関係性に関する諸資料を分析し、比較・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	日本の近現代の歴史と現代の諸課題に関する相互の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけている。	
評価方法				
ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価する。 イ 単元ごとに小テストを行い習得の状況の評価する。 ウ 自己評価、振り返りシートを評価の参考とする。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
第1編 近代の日本と社会 1国際環境の変化と幕藩体制の動揺 2明治維新と近代国家の形成 ・ペリー来航と日米和親条約 ・通商条約の締結と安政の大獄 ・貿易の影響と尊王攘夷 ・討幕運動の展開 ・幕府の滅亡と新政府の成立 ・近代国家の成立と国民の誕生 ・明治維新 ・明治初期の国際関係 ・北海道の開拓 ・不平士族の反乱と日朝修好条規		3立憲政体の成立 ・自由民権運動と政党の結成 ・松方財政と民権運動の激化 ・立憲体制の確立 ・初期議会と条約改正 ・日清戦争と日露戦争 ・韓国の植民地化 ・近代産業の発展 ・社会問題の発生 第2編 大戦期の世界と日本 1第一次世界大戦と日本 2第二次世界大戦と日本		第3編 現代の世界と日本 1戦後政治の動向と国際社会 2経済の発展と国民生活の変化 3現代の日本と世界

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
地理歴史	日本史B		自由選択
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科	2	3	沢田 李衣
使用教科書			
新選日本史B(東京書籍)			
使用副教材			
新詳日本史(浜島書店)			
学 習 目 標			
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意義に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。 ○現代社会の諸課題について歴史的観点から解決に向け主体的に取り組んでいるか。	○日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、多角的、多面的に考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、さまざまな立場や理解があることをふまえて、偏ることなく判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程・結果を、適切な方法を選んで効果的に表現しているか。	○日本の歴史を考察するために必要な諸史料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 ○得られた史料や情報を効果的に活用し、比較することで歴史を探究する学び方を身に付けているか。	○基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。 ○日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。
評 価 方 法			
ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況进行评估する。 イ 単元ごとに小テストを行い習得の状況进行评估する。 ウ 自己評価、振り返りシート进行评估の参考とする。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ 2 武家社会の形成と東アジア 第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 1 ヨーロッパ文化との接触と国内統一 2 幕藩体制の成立 3 近世社会の発達と町人文化 4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 1 開国から明治維新へ 2 立憲政治の形成と国民文化 3 日本の近代化と東アジア 4 デモクラシーと第一次世界大戦 5 激動する世界と日本	第5章 現代の世界と日本 1 占領と国内改革 2 国際社会への復帰と高度経済成長 3 石油ショックと低成長の時代 4 新しい国際秩序と日本の課題	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
地理歴史		世界史B		選択必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		4	3	高島凱哉
使用教科書				
詳説世界史B（山川出版）				
使用副教材				
グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）				
学 習 目 標				
近現代の歴史の変化を時期・年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して議論する力を養う。そのために、資料を活用して、課題を解決したり、追及したるすることで、複数の資料の関係や異同に着目し、意味や意義を推察する。テーマは自由・制限、平等・格差、開発・保全などの観点から主題を設定し、資料を活用して多角的に考察する。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
世界の諸課題について、現代とのつながりに着目し、大きな枠組みの中で意欲的に追求している。	世界の諸課題を歴史的観点から多角的、多面的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 また、提示された資料を読み取り、活用して多角的な観点から自分の意見や考えを適切に表現している。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
評 価 方 法				
①定期考査 ②ワークシートを中心とした提出物関係 ③授業態度、出席状況を総合的に判断				
1学期の内容 (52時間)		2学期の内容 (52時間)		3学期の内容 (36時間)
1 古代文明の歴史的特質 2 諸地域の歴史的特質 諸事情の背景や原因、結果や影響、事象の相互の関連に着目し、主題を設定する。特に、イスラーム世界の拡大の要因や中国社会の特徴を扱うことで、近代の西欧・アジアの対比につなげる。 3 諸地域の結合・変容		4 世界市場の形成と諸地域の結合 産業革命と自由主義、南北戦争の展開など基に国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解させる。 5 帝国主義とナショナリズムの高揚 列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、主題を設定し、帝国主義の共通点と相違点、アジアの近代化の相違点を多面的に考察させる。		6 二つの大戦 7 国際機構の形成 大戦中の連合国による戦後構想と、大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特質を多面的に考察し、表現させる。

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
数学		数学Ⅲ		選択必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		4	3	西川
使用教科書				
改訂版 数学Ⅲ（数研出版）				
使用副教材				
改訂版 教科書傍用 サクシード数学Ⅲ（数研出版） 三訂版 クリアー数学演習Ⅲ（数研出版）				
学 習 目 標				
大学受験を目指す生徒に、数学Ⅲの内容について基礎基本を十分に理解させ、希望進路の実現を目指す。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
授業で扱う数学的な考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	授業で扱う事象について数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	授業で扱う事象について数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を見に付けている。	授業で扱う数学の基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	
評価方法				
4回実施する定期考查の結果を中心とするが、授業中の取り組む様子なども含め、総合的に評価する。				
1学期の内容 (52時間)		2学期の内容 (52時間)		3学期の内容 (36時間)
【第3章 関数】 【第4章 極限】 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 【第5章 微分法】 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 【第6章 微分法の応用】 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 【第7章 積分法とその応用】 第1節 不定積分 第2節 定積分		【第7章の続き】 第3節 積分法の応用 【第2章 式と曲線】 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 ☆2次曲線に関連する微積分の問題 【第1章 複素数平面】 ☆全範囲終了次第 センター試験対策総合演習 個別試験対策総合演習		センター試験対策演習 個別・一般入試対策演習

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
数 学		数学演習発展		選択必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		2	3	田中
使用教科書				
改訂版 新編 数学Ⅰ（数研出版）・改訂版 新編 数学Ⅱ（数研出版）				
使用副教材				
共通テスト総合問題集Ⅰ・AⅡ・B（河合塾）				
学 習 目 標				
進路先において数ⅠAⅡBが必要な生徒に対して、十分に理解させるとともに希望進路が実現できるようにする。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
授業で扱う数学的な考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	授業で扱う事象について数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	授業で扱う事象について数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	授業で扱う数学の基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	
評 価 方 法				
基礎・基本に重点を置き、問題集・宿題・授業への取り組み・定期考査などを評価の対象とする。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
数学Ⅰ 数と式 2次関数 図形と計量 数学A 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質		数学Ⅱ 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法 数学B 平面上のベクトル 空間のベクトル 数列		総合演習

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
数学		数学演習基礎		選択必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		2	3	柴田
使用教科書				
改訂版 新編 数学 I				
使用副教材				
高校用 対策ドリル SPI 例題とステップアップ問題				
学 習 目 標				
高等学校入学までの数学で学習した内容を完全に理解させ、高等学校1年生で学習する数学 I（一部数学A内容を含む）の理解を深める。数学的な考え方の有用性を認識し、高等学校卒業後の実生活の中で数学的な考え方を活かせるような数の基礎学力を養成する。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
問題演習を通して、数学的な考え方を身に付け、数学的な考え方の良さを認識する。実生活の問題を数学的に解釈し、身の周りの問題を数学的に解決する能力を養う。	問題文を数学的に考察し、数式・図形・グラフ等を用いて表現することができる。思考の過程を振り返り、演繹的・帰納的に考える力を身に付ける。	数式・図形・グラフ等を用いて、事象を数学的に表現・処理する方法に習熟する。未知の問題を数学的に表現し、推論を積み重ね、最適な解決する能力を養成する。	高等学校1年生までの数学の授業で扱う基本的な概念・原理・法則等を理解し、問題解決に役立てることができる。	
評 価 方 法				
基礎・基本的な学習事項に重点を置く。定期考査・授業への取り組み・提出物等で総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
・ 値段と利益 ・ 代金の支払い(分配の計算) ・ 速さ ・ 電車の通過(通過算) ・ 川の上の船の速さ(流水算) ・ 仕事と水槽の計算(仕事算) 数と式の計算、1次方程式、1次不等式 ※ 必要に応じ、高等学校入学以前に学習した事項も復習として扱う。		・ 濃度の計算 ・ 年齢の計算(年齢算) ・ 植木の本数(植木算) ・ 鶴亀算 ・ 関数とグラフ ・ グラフと範囲 ・ 図表の見方 ・ ブラックボックス 連立方程式、連立不等式、関数、関数のグラフ、図表・グラフを用いた推論 ※ 必要に応じ、高等学校入学以前に学習した事項も復習として扱う。		・ 数列 ・ 場合の数(順列・組み合わせ) ・ 確率 ・ 集合 ・ 推理 ・ 命題 数列、確率(統計)の基礎を学習し、データサイエンスの基礎も扱う。 ※ 必要に応じ、高等学校入学以前に学習した事項も復習として扱う。

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
理科	化学基礎		必修
対 象	単 位 数	学 年	教科担任
併合科	2	3	菊池 篤
使用教科書			
改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)			
使用副教材			
改訂 ネオパルノート 化学基礎 (第一学習社)、九訂版 スクエア最新図説化学(第一学習社)			
学 習 目 標			
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質をその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法			
定期考査、小テスト、提出物(レポートを含む)、プレゼンテーション、出席状況、授業(実験)に臨む姿勢などにより、総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
【化学と人間生活とのかかわり】 【物質の探究】 ・物質の性質と分離 ・物質の成分 【物質の構成粒子】 ・原子の構造 ・電子配置と周期表	【物質と化学結合】 ・イオンとイオン結合 ・金属と金属結合 ・分子と共有結合 【物質と化学反応式】 ・原子量、分子量と物質質量 ・化学反応の量的関係	【酸・塩基と中和】 ・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩の生成 ・中和反応の量的関係と中和滴定 【酸化と還元】 ・酸化と還元 ・酸化還元反応の利用	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
理科		化学		自由選択
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		4	3	荻原 慶成
使用教科書				
改訂 化学（東京書籍）				
使用副教材				
2022セミナー 化学基礎＋化学（第一学習社） 八訂版スクエア最新図説化学(第一学習社)				
学 習 目 標				
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするもに、科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	
評 価 方 法				
定期考査、小テスト、提出物(レポートを含む)、出席状況、授業(実験)に臨む姿勢などにより、総合的に評価する。				
1学期の内容 (52時間)		2学期の内容 (52時間)		3学期の内容 (36時間)
<気体の性質> ・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式 <化学反応と熱・光> ・反応熱と熱化学方程式 ・ヘスの法則 <電池と電気分解> ・電池 ・電気分解 <無機物質> ・非金属元素の単体と化合物		<無機物質> ・典型金属元素の単体と化合物 ・遷移元素の単体と化合物 ・金属イオンの分離・確認 <有機化合物> ・有機化合物の特徴 ・有機化合物の構造式の決定 ・炭化水素 ・酸素を含む有機化合物 ・芳香族化合物 ・高分子化合物		<化学反応の速さと平衡> ・反応の速さ ・化学平衡 ・水溶液中の化学平衡

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
理科		生物		自由選択
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科		4	3	菊池 篤
使用教科書				
スタンダード生物（東京書籍）				
使用副教材				
セミナー生物基礎＋生物(第一学習社)				
学 習 目 標				
生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養うと共に、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養成する。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
生物や生物現象へ主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	生物や生物現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生物現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評 価 方 法				
テストの結果が基本となるが、持ち物・プリント・課題等の内容や提出状況・授業態度・出席状況なども考慮しながら総合的に判断する。				
1学期の内容 (52時間)		2学期の内容 (52時間)		3学期の内容 (36時間)
<生命現象と物質> ・生体物質と細胞 ・生命現象を支えるタンパク質 ・代謝とエネルギー <遺伝子のはたらき> ・遺伝情報の発現 ・遺伝子の発現調節 ・バイオテクノロジー		<生物の環境応答> ・動物の刺激の受容と反応 ・動物の行動 ・植物の環境応答 <生態と環境> ・個体群と生物群集 ・生態系の物質生産とエネルギーの流れ ・生態系と生物多様性		<生物の進化と系統> ・生命の起源と生物の変遷 ・生物の系統

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
理科		物理		自由選択
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		4	3	荻原 慶成
使用教科書				
改訂版 物理（数研出版）				
使用副教材				
四訂版 リードα 物理基礎・物理（数研出版） 改訂版 フォトサイエンス物理図録（数研出版）				
学 習 目 標				
物理の基本的概念、法則等を修得し、科学的な自然観を育む。 また、理工系進学希望者にも配慮した学習を行う。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
物理学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするもに、科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	
評 価 方 法				
定期考査、小テスト、提出物(レポートを含む)、出席状況、授業(実験)に臨む姿勢などにより、総合的に評価する。				
1学期の内容 (52時間)		2学期の内容 (52時間)		3学期の内容 (36時間)
<波> ・波の性質 ・ドップラー効果 ・光の伝わり方 ・光の回折と干渉 <力と運動> ・力のモーメント ・放物運動 ・円運動 ・慣性力 ・万有引力 ・単振動 ・運動量と力積 ・運動量保存則		<熱> ・気体分子の熱運動 ・気体の状態変化 <電気と磁気> ・静電気 ・電場と電位 ・コンデンサー ・電流 ・磁場 ・電流がつくる磁場 ・ローレンツ力 ・電磁誘導 ・交流		<原子> ・電子と光 ・原子と原子核

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
保健体育		体育		必修
対 象		単 位 数	学 年	教科担任
普通科・併合科		2	3	中谷・松田・首藤
使用教科書				
現代高等保健体育(大修館書店)				
使用副教材				
ステップアップ高校スポーツ2021 (大修館書店),個人学習ノート(大修館書店)				
学 習 目 標				
生涯を通じて運動を継続的に実践し、運動を楽しむことや自ら考え工夫する力など運動に親しむ資質や能力を育成することを目指す。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
健康・安全を確保し、各運動や競技に強い関心と意欲を持って主体的に取り組もうとしている。	各運動や競技の特性を考慮し、練習方法を考えて取り組んでいる。 自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫している。	各運動や競技に必要な体力や技能を身につけ、場面に応じて自分の考えを身体を使って表現することができる。	各運動や競技の特性やルール、マナーを理解し、課題解決のための方法と自己に適した取り組み方を言ったり書きだしたりしている。	
評価方法				
実技・出席・意欲・興味・関心・態度・服装等の他に個人学習ノートの提出・内容が重視される。自ら種目を選択し、計画的に運営することが目的であり、積極的な取り組みとリーダーに協力する姿勢が求められる。				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)	
オリエンテーション スポーツテスト Ⅰ期 設定種目より選択 Ⅱ期 設定種目より選択	オリエンテーション Ⅲ期 設定種目より選択 Ⅳ期 設定種目より選択 Ⅴ期 設定種目より選択		オリエンテーション Ⅵ期 設定種目より選択	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
保健体育	スポーツⅥ		自由選択
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科	2	3	中谷 安伸
使用教科書			
現代高等保健体育(大修館書店)			
使用副教材			
ステップアップ高校スポーツ2021 (大修館書店),個人学習ノート(大修館書店)			
学 習 目 標			
体育系に進路を希望者、体育に興味感心がある者を対象に、指導案作成と自ら授業を展開することで実技やトレーニング方法を学ぶ。さまざまな種目に取り組み、レベルの高い技術と知識の修得を目指す。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
健康・安全を確保し、各運動や競技に強い関心と意欲を持って主体的に取り組もうとしている。	各運動や競技の特性を考慮し、練習方法を考えて取り組んでいる。 自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫している。	各運動や競技に必要な体力や技能を身につけ、場面に応じて自分の考えを身体を使って表現することができる。	各運動や競技の特性やルール、マナーを理解し、課題解決のための方法やじこに適した取り組み方を言ったり書きだしたりしている。
評 価 方 法			
体育選択者としてふさわしい意欲・態度であること。指導案の内容と実施者としての取り組みを重要視する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
オリエンテーション トレーニング 陸上短距離 バドミントン バレーボール 水泳	水泳 陸上投てき バスケットボール 卓球 器械体操(マット運動)	陸上長距離走 ソフトボール(軟式野球) サッカー	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
芸術	音楽Ⅲ		自由選択
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科	2	3	赤木 智美
使用教科書			
Joy of Music(教育出版)			
使用副教材			
MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽（啓隆社）			
学 習 目 標			
音楽の諸活動を通して、視唱力、視奏力、読譜力を伸ばし、音楽の表情を感じながら個性豊かに表現したり鑑賞したりする能力を磨くとともに、音楽の楽しさを味わい、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。また、歌唱・及び様々な楽器の独奏や重奏・伴奏・視奏力の練習を通して、保育系進路への対策を行い弾き語りの力を養う。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫して、どのように歌うか、演奏するか、音楽を作るかについて表現意図を持ったり、よさや美しさを味わって聴いたりしている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に表している。	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
評 価 方 法			
・実技テスト ・提出物 ・ワークシート ・授業の取り組み			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
・「《50の小ソルフェージュ集》第1番」 ・「やさしさに包まれたなら」 ・音楽史 ・演奏課題(個々のレベルに応じた曲を練習する) ・聴音、リズム、視唱 ・演奏課題、ソルフェージュテスト ・保育園児向け演奏会	・「ほたるこい」 ・ショパンコンクールと様々な音楽表現 ・西洋音楽史 ・20世紀の音楽史 ・楽典 ・「ウエストサイドストーリー」 ・自由演奏発表会に向けての計画、練習 ・楽曲創作	・自由演奏発表会(実技テスト) ・楽曲創作	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
芸 術	美術 I		選択必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科	2	3	旭 仁 也
使用教科書			
高校生の美術1 日本文教出版			
使用副教材			
なし			
学 習 目 標			
美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、感性を高め、創造的な表現の能力を伸ばす。生徒が自分自身を見つめ、自己表現をすることができるようになる。生徒一人一人の能力を伸ばす授業を行う。又、今後の生活の中で美術を楽しむことができるように、幅広い教材を扱う。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の技法・特徴に関心を持ち、主体的に表現しようとしている。 他者の作品のよさや美しさ、表現の工夫などに関心を持ち、作品について理解しようとしている。	主題を効果的に表現するために道具の特徴を生かして、明暗や構図などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	表現したい意図を大切にして、効果的な表現方法を活用するなど創意工夫し、主題を追求して表現している。	互いの作品のよさや美しさや表現の工夫などを感じ取り、その特徴を捉えて、作品に対する見方や感じ方、考えなどをもち、理解している。
評 価 方 法			
① 作品→ア 技術の習得状況 イ 想像性、アイデアの豊かさ ウ 表現力 エ 作業の計画性 ② 意欲・関心・態度→ア 出席状況 イ 授業を受ける姿勢 ウ 提出物等			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
・オリエンテーション ・陶芸 ・ポスター表現	・写真表現 ・絵画表現 ・卒業制作	・卒業制作	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
外国語		コミュニケーション英語Ⅱ		必履修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科		3	3	安野、青木、川口
使用教科書				
Compass English Communication Ⅱ（三省堂）				
使用副教材				
CompassⅡ学習ノート(大修館書店)、総合英語FACTBOOK(桐原書店)、快速英単語 高校必修編(文英堂)				
学 習 目 標				
英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。また、英文を読み、その文の趣旨や筆者の意図・主張、データ等を読み取り、書いたり話したりして、まとめる能力も養う。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英文を読んだり相手の発言を聞いて、意図や主張を的確につかみ、まとめることができる。そして自身の伝えたいことを具体的に書いたり話したりしている。	聞くこと、読むことに関して、情報や考えなどを的確に理解している。書くこと、話すことに関して、正しい表現を用いて適切に表現している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	
評 価 方 法				
以下の項目を総合的に評価する ・単語試験 ・定期考査 ・授業への参加態度(積極性だけでなくスピーチやプレゼンテーション等のパフォーマンスを含む) ・提出物等				
1学期の内容 (39時間)		2学期の内容 (39時間)		3学期の内容 (27時間)
・授業オリエンテーション ・教科書を用いた4技能学習 -リスニング、本文読解、 -リーディングテスト、 -プレゼンテーション ・副教材を用いた文法学習 -仮定法の表現 -分詞構文の表現 -倒置・省略・強調構文 ・大学入学共通テスト対策として教科書以外の長文教材を用いた読解・要約・発表など ※上記の内容を習熟度に応じて学習する		・教科書を用いた4技能向上内容 -リスニング、本文読解、 -リーディングテスト、 -プレゼンテーション ・副教材を用いた文法学習 -比較 -代名詞 -関係詞 -接続詞 -前置詞 -主語と動詞の一致 ・大学入学共通テスト対策として教科書以外の長文教材を用いた読解・要約・発表など ※上記の内容を習熟度に応じて学習する		・教科書を用いた4技能向上内容 -リスニング、本文読解、 -リーディングテスト、 -プレゼンテーション ・副教材を用いた文法学習 -疑問文と語順 -否定・省略・強調 -時制の一致と話法 -英文法の総復習 ・大学入学共通テスト対策として教科書以外の長文教材を用いた読解・要約・発表など ※上記の内容を習熟度に応じて学習する

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態		
外国語		発展英語A		選択必修		
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任		
普通科・併合科		2	3	青木		
使用教科書						
MY WAY(三省堂)						
使用副教材						
Next Stage英文法・語法(桐原書店)、英文法基礎10題ドリル(駿台文庫)、英文読解入門10題ドリル、ぐんぐん読める英語長文(教学社)						
学 習 目 標						
英語の品詞や文構造を理解し、音読しつつ正しく意味を理解することが出来る。 文章をパラグラフ単位で理解し、全体の構成を把握することができる。 自分の伝えたいことを、英語で正しく表現できるようにするようにする。 大学入試に必要な学力をつける。						
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力		知識・理解		
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
以下の項目を総合的に評価する。 ・定期考査 ・小テスト ・授業への参加態度						
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)			
・授業オリエンテーション ・英文法基礎10題ドリル ・Next Stage ・語彙力強化	・1学期の復習 ・MY WAY ・英文読解入門10題ドリル ・ぐんぐん読める英語長文 ・Next Stage ・語彙力強化		・2学期の復習 ・MY WAY ・ぐんぐん読める英語長文 ・Next Stage ・入試問題演習			

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
外国語	英語表現Ⅱ		選択必修
対 象	単 位 数	学 年	教科担任
普通科	4	3	川口
使用教科書			
MY WAY English ExpressionⅡ(三省堂)			
使用副教材			
NEO現代を読む standard(いっずな出版)、Reading Flash stage3(桐原書店)			
学 習 目 標			
1. 様々な言語活動の中で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 論理の展開や表現の方法を工夫しながら書いたり話したりする能力を伸ばす。 3. 英文の論理展開を読み取り、筆者が用いる表現方法や主張を理解する能力を伸ばす。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。		外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。
評 価 方 法			
以下の4項目を総合的に評価する。 ①定期考査素点 ②課題提出 ③小テスト ④授業への参加態度、積極性			
1学期の内容 (52時間)	2学期の内容 (52時間)	3学期の内容 (36時間)	
・リーディング技術の紹介 ・学習スケジュールの確認 ・Phrase reading ・Paragraph reading ・Skimming ・Scanning ・Discourse marker ・大学入学共通テストレベルの入試問題演習	・1学期に学習した様々な読解技術の復習 ・実戦的な長文読解演習 ・速読演習 ・様々な構文の理解と、重要構文の含まれた英文の解釈	・2学期までに学習した読解技術と学習内容の復習 ・実戦的な長文読解演習 ・大学入学共通テストレベルの入試問題演習	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
外国語		会話英語		選択必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任	
普通科	2	3	安野	
使 用 教 科 書				
SELECT English Conversation(三省堂)				
使 用 副 教 材				
なし				
学 習 目 標				
1. 様々な言語活動の中で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 自己表現や物事の説明、プレゼンやスピーチといったあらゆる表現力を向上し、 どのシーンの誰に対しても臆することなく発信する力をつける。 3. 他者の文化に触れ、多様性を受容し、それを尊重して自身の意見や感想を自由に表現できる 精神を養う。 4. 海外へ踏み出した想定の下、より実践的な表現力を身に付ける。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解	
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	状況に応じて適切な表現を用いて意思疎通を図ることができる。	現代における言語としてより自然なものとそうでないものを使い分けることができる。	言語活動を通して文化の違いを学び、受容したうえで意見を交換したり、感想を伝えることができる。	
評 価 方 法				
以下の4項目を総合的に評価する。 ①言語活動における積極性(観察) ②自己表現の中身や表現力(観察・相互評価) ③異文化への受容(観察) ④主体的に発信しようとする精神(観察)				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)		
自己表現や説明 ・5 minutes news 表現力向上 ・pair&share ・presentation 異文化理解 ・季節ごとのトピックトーク 応用編 ・Role play	自己表現や説明 ・5 minutes news 表現力向上 ・pair&share ・speech 異文化理解 ・季節ごとのトピックトーク 応用編 ・Role play	自己表現や説明 ・5 minutes news 表現力向上 ・pair&share 異文化理解 ・季節ごとのトピックトーク 応用編 ・Role play		

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
商業(専門)	ビジネスマナー		選択必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科	2	3	野村 頼和
使用教科書			
なし			
使用副教材			
秘書検定 集中講義3級 改訂版(早稲田教育出版)			
学 習 目 標			
(1)望ましい勤労意欲と職業意識の定着 (2)実社会で必要とされる社会常識の習得 (3)実社会において必要とされるマナーや接遇などの実技面の習得 (4)実務技能検定協会主催 秘書検定試験3級合格(6月・11月・2月)			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
社会人として求められる身だしなみや言葉遣い、礼節やマナーに関心をもち、TPOに準じた適切な判断や行動ができるよう主体的に取り組む。社会人として求められるビジネスマナーについて実践的に学ぼうとする態度を身に付けている。	TPOに応じた適切な対応・接遇を行うことを目指して思考を深める。基礎的・基本的な知識と技術を基に、社会人としてふさわしい判断・表現をする創造的な能力を身に付けている。	社会人として求められる基礎的・基本的な身だしなみや言葉遣い、礼節やマナーの技術を身に付け、適切な対応を学び、その技術を学校活動の諸場面で活用している。	社会人として求められる礼節やマナーについての基礎的・基本的な知識を身に付けている。社会の一員として望ましい態度について理解している。
評 価 方 法			
検定試験・定期考査の得点の他、授業に対する意欲・態度(提出物点など)を加味して評価する。意欲・態度については、授業中の態度・実習、演習状況を重視し、授業での提出物・課題・検定対策テスト・出席状況などを加味して評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
・社会人としての心構え ・秘書の役割について ・企業の基礎知識 ・マナー・接遇 ・ビジネス文書作成などの知識と技術 ・手紙の書き方 ・秘書検定過去問題演習 ・秘書検定受験指導	・ビジネスマナーの基本 ・指示の受け方と報告・連絡・相談 ・話し方の基本 ・敬語の使い方 ・電話対応 ・訪問のマナー ・来客対応と面談の基本マナー ・会社のルールと基本マナー ・仕事とIT ・ビジネス文書の基本と社内文書の書き方 ・新聞・インターネットと情報収集、分析 ・業種・業界の知識 ・会社の仕組みと売上・知識 ・社会保険と税金 ・ビジネス用語の基本 ・ビジネスコミュニケーション検定の問題を解いてみる。	・実社会におけるビジネスマナー (1・2学期の総復習)	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
商業(専門)	情報処理		選択必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科	4	3	野村 頼和
使用教科書			
最新情報処理 新訂版(実教出版)			
使用副教材			
日本語ワープロ模擬問題集 情報処理技能検定試験(表計算) 各級			
学 習 目 標			
コンピュータの基本的な仕組みについて学習する。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する。表計算ソフトを活用して、ビジネスにかかわる関数を学習する。ワープロソフトで通信文書、デザイン文書を作成できるようにする。 日本情報処理検定協会主催の日本語ワープロ、表計算を受検し、3級以上合格を目指す。 日本情報処理検定協会主催の文書デザイン検定の問題を練習する。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報社会について関心を持ち、情報処理の諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	情報処理について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、情報を処理する者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	情報処理に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、情報の処理を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	情報に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、情報社会の一員としての望ましい心構えについて理解している。
評 価 方 法			
定期考査、検定試験の結果の他に、授業に対する意欲・態度を意欲・態度についても評価の対象とする。授業中の態度・実習状況を重視し、提出物・作品、出席状況などを加味して評価する。定期考査は主に実技試験を授業中に行う。発表を行った際の生徒の評価も考慮する。			
1学期の内容 (52時間)	2学期の内容 (52時間)	3学期の内容 (36時間)	
・ビジネスと表計算ソフト基本関数の学習 ・基本グラフの学習 ・ビジネスとワープロソフト社外文書の学習 ・日本語ワープロ検定過去問題演習 ・情報処理検定過去問題演習 ・上記検定試験受験指導	・日本語ワープロ検定過去問題演習 ・情報処理検定過去問題演習 ・上記検定試験受験指導 ・ビジネスと表計算ソフト文字列関数とデータベース関数の学習 ・ビジネスとワープロソフトオブジェクトを使った地図作成の学習	・文書デザイン検定の問題に挑戦する。 ・プレゼンテーション学習 ・プレゼンテーションソフトの機能学習 ・情報伝達能力の育成	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目	履 修 形 態
商業(専門)		原価計算	選択必修
対 象		単 位 数	学 年
普通科		2	3
使用教科書			
原価計算(東京法令出版)			
使用副教材			
反復式学習と検定 簿記問題集全商1級原価計算(実教出版)			
学 習 目 標			
製造業における原価計算と工業簿記に関する知識と技術を習得させ、理解を深めさせる。原価の概念に対する理解を深め、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。 全国経理教育協会主催、簿記能力検定試験2級(工業簿記)の合格を目指す。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
製造業の限界計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得と理解を深めることに意欲的に取り組んでいるかどうか。	個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算のそれぞれの特徴と適用される生産形態について自ら思考を深め、知識や技術を活用して適切な判断を行い、創意工夫を行うとともにその成果を的確に表現できているかどうか。	原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、製造業における諸活動を計数的に把握し、適切に処理できているかどうか。	原価計算の基本的な仕組みと工業簿記の基礎的・基本的な知識を理解しているかどうか。
評 価 方 法			
定期考査・検定試験の結果の他、授業に対する意欲・態度を加味して評価する。意欲・態度については、課題や提出物、出席状況、授業態度などを加味して評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
・日商簿記検定3級受験にむけた学習 ・工業簿記と原価計算 製造業における簿記と原価計算 原価と原価計算 製造業における簿記と特色と仕組み ・原価の費目別計算 材料費の計算と記帳 労務費の計算と記帳 経費の記帳と記帳	・原価の部門別計算と製品別計算 個別原価計算 原価の部門別計算 総合原価計算 工程別総合原価計算 ・製品の完成・販売と決算 製品の完成と販売 本社・工場会計 製造業の決算	・全経簿記検定受験にむけた学習 過去問題演習	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目	履 修 形 態
商業(専門)		ビジネス基礎	選択必修
対 象		単 位 数	学 年
普通科		2	3
使用教科書			
ビジネス基礎 新訂版 (実教出版)			
使用副教材			
全経過去問題集電卓計算(全国経理学校協会) ※級は受験を希望するもの			
学 習 目 標			
ビジネスに関する知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割を理解させる。流通を中心としたビジネス活動に適切に対応できる能力と態度を育てる。 全国経理教育協会主催電卓電卓検定を受検する。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネスについて関心をもち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員としての望ましい心構えについて理解している。
評 価 方 法			
定期考査・検定試験の得点および、授業に対する意欲・態度を評価の対象とする。意欲・態度については、課題や提出物、出席状況、授業態度などを加味して評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
経済と流通の基礎 経済のしくみとビジネス 社会の変化とビジネスの発展 流通活動と流通 ビジネスの担い手 ものの生産者 電卓計算能力検定演習 上記検定指導	ものの生産者 サービスの生産者 小売業 卸売業者 物流業者 金融業 情報通信業 企業活動の基礎 ビジネスと企業 資金調達 企業活動と税 電卓計算能力検定演習 上記検定指導	企業活動の基礎 雇用 企業倫理 ビジネスと売買取引	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
農業(専門)		総合実習		学校必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
農林科		3	3	梅田、丸橋、木村
使用教科書				
なし				
使用副教材				
なし				
学 習 目 標				
・草花、野菜、畜産、森林の栽培や飼育管理実習を通して、農業に関わる基礎・基本的な知識や技能を身につけさせるとともに、農業の良き理解者として調和のとれた人間づくりを目指す。 ・農業に関する基礎的な知識の定着を徹底し、さらに応用的な知識にも触れることで幅広い見識を深める。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
豊かな自然環境のなかで、農業・環境の各分野に対し興味・関心を持ち、実習を中心とした授業に知的探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとしている。	実習を中心とした授業において、農業生産に関する各作業の目的を理解し、常に次の作業を考えながら、自己の判断で効率的な行動を取れる。	農業生産に必要な基礎的な用具、機具を活用し、農業生産に必要な技能を身に付け、効率的に作業を進められる。	農業生産に関する基礎的な知識が定着し、農業生産や環境創造のより専門性の高い内容への知識欲を高めることができる。	
評 価 方 法				
上記の観点において、それぞれの到達度を、実物鑑定試験、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題などを用いて点数化し、総合的に評価する。特に、課題レポートなどの提出期限については厳守することを徹底する。				
1学期の内容 (39時間)		2学期の内容 (39時間)		3学期の内容 (27時間)
草花 一年草・鉢花・観葉植物の栽培管理と利用 野菜 野菜の生育の特性と栽培技術 野菜の生育と栽培管理 (果菜・葉菜・根菜)の主体的な栽培とその工夫 乗用トラクターの操作方法 畜産 家畜の飼育管理技術の習得 飼料作物や飼料の管理について 鶏卵の出荷作業 森林 樹木の管理、機械操作 椿園の管理 さくらプロジェクト		草花 鉢花・花木の栽培管理と利用 学校祭での販売実習準備 地域の花産業について(パルディア等) 野菜 葉菜類の育苗、植付け、収穫、販売実習 ナガネギ、ゴボウの収穫、貯蔵 学校祭に向けての準備 畜産 肉用若鶏の飼育管理・解体 生産品販売実習 家畜の育すうならびに飼育管理実習 森林 樹木の管理、機械操作 さくらプロジェクト 夏季休業中に夏期実習(1単位)を実施		草花 培養土作り 草花の装飾 鉢花の栽培管理 野菜 野菜苗用培養土づくり ビニールハウスのビニール張り替え ジャガイモの植え付け 春野菜育苗準備 畜産 畜産加工実習 家畜の飼育管理実習 森林 樹木のせん定・間伐、機械操作 椿園の管理 さくらプロジェクト

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
農業(専門)	課題研究		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
農林科	3	3	梅田、土屋、丸橋
使用教科書			
なし			
使用副教材			
なし			
学 習 目 標			
農業生産に関する体験的な学習により、農業と環境の総合的な知識・技術を習得させ、卒業後の社会で活用できる実践的な能力と態度を育てる。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
農業・環境の各専門分野から興味関心のあるテーマを設定し、さまざまな課題に対して知的探究心を持って、積極的、主体的に研究する。	主体的に実験実習予定を計画し、実践することができる。また、自己の判断で効率的な行動を取れる。	研究に必要な実験器具や農業用具などを活用できる技能を身に付け、また、各種実験等のデータの採取、集約についてはコンピュータを活用し、効率的に作業できる。	農業と環境に関する知識を応用して理論的な研究を実践し、得られた結果から、農業生産や環境創造に関する専門的な考察をすることができる。
評 価 方 法			
態度点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題、発表方法などを総合して評価する。			
1学期の内容 (39時間)	2学期の内容 (39時間)	3学期の内容 (27時間)	
研究テーマの設定と研究計画の作成 ・研究目的、研究方法、計画研究 テーマに基づいた活動 ・農林科各分野における実験のための栽培と飼育、商品開発、 環境調査、作品制作など	研究テーマに基づいた活動 ・農林科各分野における実験のための栽培と飼育、商品開発、 環境調査、作品制作など ・学校祭での展示発表 ・テーマに基づいたデータの収集 ・データの集計と分析 ・結果のまとめ、結果からの考察	課題研究まとめ ・研究発表会準備 ・研究要旨作成 ・課題研究発表会	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
農業(専門)		グリーンライフ		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任	
農林科	2	3	丸橋、福岡	
使用教科書				
なし				
使用副教材				
なし				
学 習 目 標				
伊豆大島における地域産業や、江戸東京野菜などの伝統作物などを第六次産業として観光業に生かすために必要な知識・技能を学ぶ。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
豊かな自然環境のなかで、農業・環境の各分野に対し、大きな興味関心があり、実習を中心とした授業に知的探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとする。	実習を中心とした授業において、農業生産に関する各作業の目的を理解し、常に次の作業を考えながら、自己の判断で効率的な行動を取れる。	農業生産に必要な基礎的な用具、機具を活用できる技能を身に付け、効率的に作業を進められる。	グリーンライフに関する基礎的な知識が定着し、農業生産や環境創造のより専門性の高い内容への知識欲を高めることができる。	
評 価 方 法				
上記の観点において、それぞれの到達度を、定期考査、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題などを用いて点数化し、総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
実習 椿園・椿林の管理作業 ツバキ保存品種の繁殖 ヤブツバキ林の保存と活用 伝統作物の栽培 座学 人間生活とグリーンライフの係わり 農業・農村・自然の係わりを知る グリーンツーリズムの主な取り組み		実習 椿園・椿林の管理作業 ツバキ保存品種の繁殖 国際優秀つばき園の活用 ツバキの特産品づくり 伝統作物の栽培と加工 小中学校等との連携 座学 農業の機能とその活用の多様性を知る 大島の観光・農業の現状と課題 大島の農村景観の発見とその活用		実習 椿園の管理作業と椿ガイド 小中学校等との連携 座学 ツバキの園芸品種の活用方法

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
農業(専門)		農業情報処理		必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任	
農林科	2	3	木村	
使用教科書				
農業情報処理(実教出版)				
使用副教材				
30時間でマスター Office2019(実教出版)				
学 習 目 標				
社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報に関する知識と技術を習得する。それを活かし、農業・環境情報を主体的に活用するためホームページ制作や広報制作、情報管理など高度な操作について習得する。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
コンピュータや情報通信ネットワークの仕組みや働き、処理手順などに関心を持ち、これらを活用しようとしている。	情報システムや提供されるサービスの役割と影響及び活用の在り方について考え、それらを適切に表現している。	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報システムや提供されるサービスを活用するための技能を身に付け、活用することができる。	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報システムや提供されるサービスを活用するための知識を身に付け、それらを活用する際の配慮事項を理解している。	
評 価 方 法				
授業への取り組み方、課題作成能力、定期考査(実技・筆記)などを総合的に判断して評価する。 特に、課題レポートなどの提出期限については厳守することを徹底する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
1 農林科ホームページの更新	1 農林科ホームページの更新	1 農林科ホームページの更新	1 農林科ホームページの更新	
2 画像を活用した文書の作成	2 農業情報を活用したビジネスプランの作成	2 農業情報を活用したビジネスプランの作成	2 農業情報を活用したビジネスプランの作成	
3 農林科紹介カレンダーの作成	3 農林科紹介カレンダーの作成	3 農林科紹介カレンダーの作成	3 農林科紹介カレンダーの作成	
4 プレゼンテーションソフトを活用した発表資料作成	4 プレゼンテーションソフトを活用した発表資料作成	4 プレゼンテーションソフトを活用した発表資料作成	4 プレゼンテーションソフトを活用した発表資料作成	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
農 業 (専 門)		生 物 活 用		学 校 必 修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任	
農 林 科	2	3	梅 田、木 村	
使 用 教 科 書				
生 物 活 用 （実 教 出 版）				
使 用 副 教 材				
な し				
学 習 目 標				
栽培や飼育実習を通して基礎・基本的な知識や技術を身につけさせるとともに、植物や動物とふれあい、世話をすることによって生物を福祉的、療養的に活用して思いやることの意義を学び、調和のとれた人間づくりを目指す。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
豊かな自然環境のなかで、生物活用について興味関心をもち講義と実験・実習を併用した授業に対し、常に知的探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとする。	講義で学んだ生物活用に関する知識を応用し、実験・実習において自ら行動をとることができる。	生物活用に必要な基礎的な器具、機器を活用できる技能を身に付け、効率的に実験・実習を進められる。	生物活用に関する基礎的な知識を定着させ、より専門性の高い内容への知識欲を高めることができる。	
評 価 方 法				
授業に対する積極性や責任感、協調性、安全性、技能レベル、理解度、レポートの提出などを総合的に判断して評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
生物活用の意義と役割 生物活用とはなにか 生物活用の大切さ 私たちの暮らしと生物活用 植物・園芸と人間生活 私たちの暮らしと園芸 植物・園芸の活用 動物と人間生活 私たちの暮らしと動物 動物の活用		園芸作物の栽培と活用 草花の栽培と活用 野菜・ハーブの栽培と活用 野菜の加工・利用 動物の飼育と活用 動物の飼育と活用		園芸作物の加工と利用 農産物の加工と利用 生物活用の実際 交流活動の実施 □

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
家庭	家庭総合		必修
対 象	単 位 数	学 年	教科担任
普通科	2	3	大村 優子
使用教科書			
家庭総合 主体的に人生をつくる(大修館書店)			
使用副教材			
LIFEおとなガイド 資料+グラフ式成分表(教育図書)			
学 習 目 標			
(1)栄養学に関する学習と調理実習を通して、食と健康について考えさせる。 (2)安全で快適な住居のあり方について理解し、自らの住生活を創造する力を養う。 (3)高齢者の生活と福祉について理解を深め、共生社会をつくる資質を養う。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食生活、住生活、高齢者の生活に関心を持ち、生活をより快適にするために、どうすればいいかを追求し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①食生活、住生活、高齢者の生活事象をみつめ、問題点を見出せる。 ②生活をよりよくするために多角的に思考判断し、それを的確に表現できる。	①基本的な調理技術を習得している。 ②安全で快適な住生活を創造できる。 ③高齢者の生活を支援する技術を習得している。	①食と健康の関係を理解できる。 ②安全で快適な住生活のあり方について理解している。 ③高齢者の生活と福祉について理解している。
評価方法			
①授業態度及び出席状況 ②ノート、作品、課題等の提出状況と内容 ③定期考査			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
生涯の健康を見通した食生活を作ろう 1 食生活の成り立ち 2 栄養と食品 3 安全で環境に配慮した食生活 4 食の文化を考えよう 5 健康につながる食事計画 6 料理の基本を学ぼう	安全で快適な住生活を作ろう 1 住生活の成り立ち 2 家族の生活と住空間 3 健康で安全な住生活 4 よりよい住環境の実現をめざして	高齢者の生活と福祉について考えよう 1 高齢期という時期 2 高齢期の生活と課題 3 高齢期の生活を支える高齢者福祉 4 高齢社会の現状と課題	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
家庭(専門)		調 理		学校必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
家政科		2	3	濱田 朋子
使用教科書				
使用副教材				
調理1(実教出版)、調理2 (実教出版)				
学 習 目 標				
様式別調理、大量調理などに関する知識と技術を習得し、健康の維持・増進に寄与する食生活の充実向上を図ると共に、創造的に調理する能力と態度を身につける。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
①調理の基礎、様式別調理、大量調理に関心を持ち、知識技術の習得に意欲的で、積極的・協働的な姿勢で取り組んでいる。 ②食生活の充実向上に向けて自らできることを模索し、行動している。	①食品の性質と調理の留意点をつなげて思考し判断できる。②様式別調理・供応食献立を食品・栄養・食文化・食し好から総合的に考え、調理や提供の仕方を工夫し表現できる。 ③大量調理の管理法について適宜考え、判断できる。	①様式別調理で、献立作成、調理、テーブルコーディネートなどに関する技能を身につけている。 ②大量調理で衛生的に調理ができる。 ③食事環境を整え、適切なサービスをすることができる。④供応食の調理技能を身につけている。	①食品の性質と調理操作をつなげて理解できる。②様式別調理の特徴を理解し、知識を身につけている。③行事食供応食献立の作成で考慮すべきことを理解している。④大量調理の管理法を理解している。	
評 価 方 法				
①発問と行動観察で調理の知識と技術が身についているか確認 ②授業への取り組み態度及び出席状況 ③実習レポート及び課題の提出状況と内容 ④実技テスト及び定期考査				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
1. 調理の基礎 ・食品の性質 ・調理の種類と基本操作 2. 様式別調理 【日本料理】【西洋料理】【中国料理】 ・特徴、献立構成、実習、食事作法 ・食事環境とサービス 3. 販売品製造 ・大量調理 ・食事環境とサービス		1. 調理の基礎 ・食品の性質 ・調理の種類と基本操作 2. 様式別調理 【日本料理】【西洋料理】【中国料理】 ・特徴、献立構成、実習、食事作法 ・食事環境とサービス 3. 学校祭レストラン、販売品製造 ・目的別の献立と調理 ・大量調理 ・食事環境とサービス 4. 行事食・供応食の調理 ・食文化、献立構成、実習、食事作法 ・食事環境とサービス		1. 調理の基礎 ・食品の性質 ・調理の種類と基本操作 2. 様式別調理 【日本料理】【西洋料理】【中国料理】 ・特徴、献立構成、実習、食事作法 ・食事環境とサービス 3. 販売弁当の製造 ・弁当献立の作成 ・大量調理 ・食事環境とサービス

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
家庭(専門)	ファッション造形		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
家政科	2	3	坂本 志保
使用教科書			
ファッション造形基礎(実教出版)			
使用副教材			
なし			
学 習 目 標			
製作を通して立体構成についての知識、被服材料の適切な扱い等の技術を学ぶ。デザインや着用目的に応じた被服を、造形する技術を習得する。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ファッション造形に対し、興味・関心を持ち、講義と実習に対し、常に探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとしている。	講義で学んだファッション造形に関する知識を応用し、実習において自ら効率的な作業を思考し行動をとることができる。	ファッション造形に必要な用具、機器を適切に活用する技能を身につけている。 デザインや着用目的に応じてファッションを造形する技術を習得している。	ファッション造形に関する知識が定着している。 デザインや着用目的に応じたファッション造形について、体系的に理解している。
評 価 方 法			
上記の観点において、それぞれの到達度を定期考査(筆記・実技)、実習点、レポート課題等で、総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
前開きパンツ製作 ・パターン補正 ・地直し、裁断、しるしつけ ・接着芯を貼る ・ポケット製作 ・前あきの始末 ・見返しの処理 ・縫製	前開きパンツ製作 ・縫製 ・仕上げ作業 製作実習のまとめ ・製作レポート作成 ・作品発表 自由製作 ・製作物の決定 ・製作手順を決める ・縫製	自由製作 ・縫製 製作実習のまとめ ・製作レポート作成 ・作品発表	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
家庭(専門)	子どもの発達と保育		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
家政科	2	3	大村 優子
使用教科書			
子どもの発達と保育(実教出版)			
使用副教材			
なし			
学習目標			
(1)子どもの発達の特性や発達過程に関する知識を習得する。 (2)基礎的な発達段階に応じた保育技術を習得する。 (3)子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を養う。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
(1)乳幼児期の発達の特性について関心を持っている。 (2)乳幼児期の食の大切さを理解しようとしている。 (3)発達段階に応じた遊びの大切さについて関心を持っている。 (4)子どもを産み育てることの意義と家庭・社会の役割について理解を深めようとしている。	(1)乳幼児期の発育・発達を促すかわり方を判断できる。 (2)発達段階に応じた保育を実現できる。 (3)子どもを取り巻く家庭・社会の在り方について思考し表現することができる。	(1)基礎的な保育技術を実現できる。 (2)子どもの発育に応じたかわり方ができる。	(1)乳幼児期の発達の特性について理解できる。 (2)乳幼児期の食の大切さを理解できる。 (3)発達段階に応じた遊びの大切さについて理解できる。 (4)子どもを産み育てることの意義と家庭・社会の役割を理解できる。
評価方法			
①授業態度及び出席状況 ②プリント及び課題等の提出状況 ③定期テスト			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
1. 子どもの発達の特性 (1)発達と乳幼児期の意義 (2)発達と保育環境 (3)児童観と発達観 2. 子どもの生活 (1)子どもの養護 (2)子どもの遊び (3)生活習慣の形成 (4)健康管理と事故防止 3. 子どもの保育 (1)保育の意義と重要性 (2)家庭保育と集団保育 (3)保育の方法 (4)保育実習準備 (5)保育実習 (8月初旬5日間)	4. 子どもの発達の過程 (1)子どもの発育 (2)子どもの精神発達 (3)人間関係の発達 5. 子どもの福祉 (1)子どもの福祉 (2)子育て支援 6. パネルシアターの制作(1) (1)脚本の制作 (2)パネルの制作 (3)試演	7. パネルシアターの制作(2) (1)パネルの制作 (2)発表(発表練習含む)	

令和5年度 年間授業計画

教 科	科 目		履 修 形 態
家庭(専門)	課題研究		学校必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任
家政科	4	3	坂本 志保
使用教科書			
なし			
使用副教材			
なし			
学 習 目 標			
これまでに学んだ知識・技術を基礎とし、生徒が自ら研究課題を設定し、課題解決に向けて計画立案、調査・研究、作品製作、実習を行う。研究内容をまとめ、最終的に研究発表会で発表することを通して、専門的知識技術の深化と総合化を図る。生徒の自発的創造的な学習態度を身につける。			
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
課題研究の主題に対し、興味・関心があり、講義と実験・実習・調理加工等を行う授業に対し、常に探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとする。	家政科で学んだ知識・技術を応用し、実験・実習・調査活動において自ら考察し、考察した内容を正しく表現することができる。	自ら設定した課題の解決に向け必要な技術を活用し、効率的に実験・実習・調査活動・調理加工・被服製作等を行うことができる。	自ら設定した課題に関する基礎的な知識を定着させ、より専門性の高い内容への知識欲を高めることができる。
評 価 方 法			
上記の観点において、それぞれの到達度を、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、服装、提出物)、レポート課題等の観点から点数化し、総合的に評価する。			
1学期の内容 (52時間)	2学期の内容 (52時間)	3学期の内容 (36時間)	
・ 面談(研究テーマの確定) ・ 年間計画の作成 ・ 研究活動および実践活動 ・ 研究報告書の作成 ・ 発表原稿・資料作成 ・ 発表会	・ 2学期の実施計画確認 ・ 実践活動 ・ 研究報告書の作成 ・ 発表原稿・資料作成(パワーポイント)	・ プレゼンテーション資料の作成 ・ 発表会リハーサル ・ 発表会 ・ 最終報告書の作成 ・ 反省・感想	

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
家庭		子どもの発達と保育		自由選択
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科		2	3	濱田 朋子
使用教科書				
子どもの発達と保育(実教出版)				
使用副教材				
なし				
学 習 目 標				
(1)子どもの発達の特性や発達過程に関する知識を習得する。 (2)基礎的な発達段階に応じた保育技術を習得する。 (3)子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を養う。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
(1)乳幼児期の発達の特性について関心を持っている。 (2)乳幼児期の食の大切さを理解しようとしている。 (3)発達段階に応じた遊びの大切さについて関心を持っている。 (4)子どもを産み育てることの意義と家庭・社会の役割について理解を深めようとしている。	(1)乳幼児期の発育・発達を促すかわり方を判断できる。 (2)発達段階に応じた保育を実現できる。 (3)子どもを取り巻く家庭・社会の在り方について思考し表現することができる。	(1)基礎的な保育技術を実現できる。 (2)子どもの発育に応じたかわり方ができる。	(1)乳幼児期の発達の特性について理解できる。 (2)乳幼児期の食の大切さを理解できる。 (3)発達段階に応じた遊びの大切さについて理解できる。 (4)子どもを産み育てることの意義と家庭・社会の役割を理解できる。	
評価方法				
①授業態度及び出席状況		②プリント及び課題等の提出状況		③定期テスト
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
1. 子どもの発達の特性 (1)発達と乳幼児期の意義 (2)発達と保育環境 (3)児童観と発達観 2. 子どもの生活 (1)子どもの養護 (2)子どもの遊び (3)生活習慣の形成 (4)健康管理と事故防止 3. 子どもの保育 (1)保育の意義と重要性 (2)家庭保育と集団保育 (3)保育の方法 (4)保育実習準備 (5)保育実習		4. 子どもの発達の過程 (1)子どもの発育 (2)子どもの精神発達 (3)人間関係の発達 5. 子どもの福祉 (1)子どもの福祉 (2)子育て支援 6. パネルシアターの制作(1) (1)脚本の制作 (2)パネルの制作 (3)試演		7. パネルシアターの制作(2) (1)パネルの制作 (2)発表(発表練習含む)

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
家庭		調理		自由選択
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科		2	3	濱田 朋子
使用教科書				
なし				
使用副教材				
なし				
学 習 目 標				
健康で安全な食生活に関する基本的な知識と技術を身に付け、豊かな食生活が営めるようにする。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
調理と栄養の各分野に対し、興味・関心があり、講義と実験・実習・調理加工等を行う授業に対し、常に探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとする。	講義で学んだ調理・栄養に関する知識を応用し、実験・実習において自ら効率的な行動をとることができる。	衛生的な調理に必要な器具、機器や加工技術を活用でき、技能を身に付けることで、効率的に実験・実習・調理加工を行うことができる。	調理操作・栄養学に関する基礎的な知識を定着させ、より専門性の高い内容への知識欲を高めることができる。	
評 価 方 法				
上記の観点において、それぞれの到達度を、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、服装、提出物)、レポート課題等の観点から点数化し、総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
1 食事の意義と役割 2 栄養素のはたらきと食事計画 ・栄養素の種類とはたらき ・栄養計画 3 食品の特徴と性質 4 調理の基礎・基本 5 調理実習 ・日本料理 ・大島の郷土料理 ・西洋料理		1. 料理様式とテーブルコーディネート ・料理様式と献立 ・料理様式別調理実習 ・テーブルコーディネート 2. 食品の選択と調理 ・各国料理と調理実習 ・食品の選択と調理		1 献立作成 ・献立の種類と条件 ・テーマ設定と調理実習

令和5年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
人間と社会		人間と社会		必修
対 象	単 位 数	学 年	教 科 担 任	
普通科・併合科	1	3	柴田、首藤、菊池、坂本、市川 西川、荻原、赤木、木村、丸橋	
使用教科書				
人間としての在り方生き方に関する教科 「人間と社会」改訂版教科書(東京都教育委員会)				
使用副教材				
なし				
学 習 目 標				
教科「人間と社会」における見方・考え方を働かせ、価値の理解を深め、選択・行動に関する資質・能力を育成する学習・体験活動による学習などを通して、道徳性を養い、判断基準(価値観)を高めることで、社会的現実にもとらされ、よりよい生き方を主体的に選択し行動する資質・能力を育成する。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
・演習や体験活動に主体的、意欲的に参加できる。 ・積極的にグループワークをとおり、他者と意見交換をし、考えを深めようとする事ができる。	・人間関係を築く事の意味と、自分の考えについて表現することができる。 ・グループワークをとおり、他者の考えを理解し、自らの考えを深めることができる。	・演習や体験活動において、積極的に人間関係をつくり、他者と協働することができる。 ・地域社会を築く事について、自分の考えを発表することができる。	・科目概要と目標を理解できる。 ・演習や体験活動をつうじて、成果と課題を把握することができる。	
評 価 方 法				
数値評価ではなく文章記述による評価				
1学期の内容 (13時間)		2学期の内容 (13時間)		3学期の内容 (9時間)
・教科の説明、序章 ・第1章「人間関係を築く」 ・アントレプレナーシップ講演会 ・地域社会をつくる ～スピリッツ・オブ・ライフセービング～ ・体験活動① 海辺の花園再生プロジェクト ・体験活動② メモリアル公園植栽プロジェクト ・体験活動③ ビーチクリーン ・国際理解講演会		・玉川パフォーミング・アーツ・プログラム ・体験活動④ 海辺の花園再生プロジェクト ・体験活動⑤ メモリアル公園植栽プロジェクト ・第14章「自然と人間の関わり」 ・体験活動⑥ 郷土芸能祭を通した伝統文化の継承 ・命の授業 ～頂いた命とどう向き合うか？～ ・国際理解講演会 ・防災講話		・国際理解講演会 ・最終章・おわりに